

第1回 小学校教育の現状と今後の在り方検討委員会 会議要旨

- 1 日時 平成29年7月3日(月) 13:30~15:30
- 2 会場 東京都庁第一本庁舎37階教育委員会室
- 3 出席者 坂野委員(委員長)、小泉委員、藤崎委員、桶田委員、種村委員
出張委員(副委員長)、増淵委員、江藤委員、岩野委員(代理)

4 議事概要

(1) 委員長選出

- ・ 坂野委員を本委員会の委員長に選出
- ・ 出張委員を本委員会の副委員長に選出

(2) 小学校教育の現状と課題について 事務局から資料を説明後、意見交換

▽ 就学前教育と小学校教育の接続の問題

- 公立幼稚園と小学校との交流が進んできている。私立の幼稚園や保育園等との交流も引き続き充実させていく必要がある。また、新しい幼稚園教育要領等の内容について周知するとともに、実践を深めてほしい。
- 幼小中、それぞれの時期に大事なものは何かを明らかにし、何を学ぶのかを整理する必要がある。特に小さい時期には、学習の素地となる地頭を育てることが大切である。
- 発達障害は早期発見・早期対応が大切であり、教員だけではなく、精神科医、小児科医等の専門家による対応が必要である。
- 学校間の接続について、「小1問題」「中1ギャップ」と言われているが、「問題」と「ギャップ」という捉え方は意味が異なる。多様な子供たちの様子について、柔軟に捉えることが必要ではないか。

▽ 新学習指導要領に向けた小学校教育の現状

- 多くの学習内容、多様な子供たちへの対応等、一斉指導では対応しきれない状況である。
- 小学校での学級担任制は、子供たちとの信頼関係を築く上で効果的である。一方、専科教員による専門的な指導も大切である。
- 脳の発達の観点から、子供たちの関心・意欲を育てることは大切である。やる気や情熱等の意欲があれば、知識を得ることは可能である。

▽ 小学校教員の勤務の実態と働き方改革について

- 教員が子供と接したり授業の準備をしたりする時間を、もっと取れるようにする必要がある。
- 担任でなくてはできないこと、担任でなくてもできることを整理する必要がある。
- 海外では、教育の役割を様々な職で分担をしたり、低学年での担任2人制を取り入れたりしている事例等があるので、参考にできる部分もあるかもしれない。
- 教育の質を落とさず、これまでの教育の良さを維持するために、新しい教育の形を模索することも必要である。